The Japan Lung Cancer Society

m²×3), VDS(2mg/m²×3)の3剤併用療法を施行した. 1例でCR, 14例でPRが得られ, 全体の奏効率は44%であった. 腺癌では26%, 扁平上皮癌+大細胞癌で82%の奏効率であった(p=0.0035). 副作用は, グレード3以上の白血球減少が68%に, 血小板減少が24%にみられた.

46. 前治療無効及び再発肺癌症例に対するWeekly CPT-11+CDDP併用療法の検討

九州大胸部疾患研究施設
八並 淳, 中西洋一, 高山浩一
犬塚 悟, 川崎雅之, 松木裕暁
若松謙太郎, 橋本修一
原 信之

前治療無効および再発小細胞肺癌3例, 非小細胞肺癌9例(腺癌7例, 大細胞癌2例)にweekly CPT-11+CDDP療法(CPT-11 60mg/m² CDDP 30mg/m², day 1, 8, 15)を施行した. 12例中5例(小細胞肺癌1/3例, 腺癌3/7例, 大細胞癌1/2例)でPRが得られた(奏効率:42%). Grade 3以上の白血球減少が5例(42%), 血小板減少が3例(25%), Grade 2以上の下痢が5例(42%)に認められた. 再発症例・難治症例に対する本療法の有用性が示唆された.

47. 外来通院にてのCDDP(1回大量投与)を含む抗癌化学療法(肺癌120例)

熊本地域医療センター呼吸器内科
千場 博, 深井祐治, 瀬戸貴司

CDDP(1回投与量70mg/m²以上)を含む抗癌化学療法を外来通院にて肺癌120例(229回)に施行した. これは症例数で28%, 投与回数で17%に相当する. 緊急入院となった24例(31回)では骨髄抑制によるものが多くを占めた. あらかじめG-CSFを投与した群では緊急入院の頻度は明らかに低く, 外来治療の場合G-CSFは必須の支持療法と考えられた. CDDP(1回大量投与)を含む抗癌化学療法もPSがよければ多くの症例で外来通院で可能と思われた.

48. CPT-11による肺臓炎と思われる1例

長崎大第2内科 飯田哲也
高谷 洋, 中野令伊司
藤野 了, 楢崎史彦, 岡三喜男
原 耕平

症例は51歳, 男性. 右肺門の小細胞肺癌に対してCPT-11単剤を投与した. 総投与量は560mg. 第2クールの21日目に39度台の熱発あり, 胸部X線上すりガラス状陰影出現. CTでびまん性肺野濃度上昇を認めた. ステロイドのパルス療法で陰影は改善した. 間質性肺炎, 肺線維症の既往, 放射線治療歴はなく, 臨床経過からCPT-11による肺臓炎が疑われた.

49. 20年の経過で局所再発し, 多発性肺転移でみつかった舌腺様嚢胞癌の1例

宮崎医大第3内科 谷口治子
増本英男, 脇坂ありさ
飯干宏俊, 芦谷淳一, 迎 寛
松倉 茂

症例は70歳の女性. 20年前に舌腫瘍の切除術を受けた. 今回, 胸部X線写真で両肺に多発性結節影を指摘され, TBLBを施行するも確定診断は得られなかった. 転移性肺癌を疑い全身検索を行ったが原発巣を発見できなかった. 当科にて経皮肺生検を施行し, 腺様嚢胞癌の所見が得られたため, 改めて検索したところ前回手術部に一致した左舌尖部粘膜下に径2cm大の腫瘍を認めた. 生検の結果, 腺様嚢胞癌であり, 原発巣と診断した.

50. 嚢腫状多発縦隔リンパ節転移を認めたびまん性胸膜中皮腫の1切除例

大分医大第2外科 三浦 隆
田中康一, 葉玉哲生, 内田雄三
同 第3内科 宮崎英士
喜多嶋和晃, 松本哲郎

症例は52歳の女性. 検診で右上縦隔陰影の拡大と胸水を指摘され入院となる. 胸水細胞診で中皮腫が疑われたが, 縦隔陰影はCT上良性多発性嚢腫と考えられた. 胸腔鏡検査で中皮腫は, ほぼ横隔膜のみに限局していたので横隔膜亜全摘と壁側胸膜の可及的切除, 臓側胸膜に対しYAGレーザー焼灼術を併用した. 縦隔には3個の嚢腫があり合併切除したが, 病理診断は中皮腫のリンパ節転移であった. 嚢腫状リンパ節転移は稀であり報告する.

51. Pulmonary endodermal tumorの1例

佐賀医大内科 中村 恵
中原快明, 林真一郎, 山田穂積
同 胸部外科 堀田圭一
伊藤 翼
同 病理部 山田隆啓
徳永 蔵

62歳女性の右下葉末梢に発生したPulmonary endodermal tumorの1例を経験した. 画像上悪性所見に乏しく, TBLBでも好酸性の細胞質を有する細胞を認めるも, 確定診断は困難であった. 摘出標本にて胎児肺気管支に類似し, 核の異型性に乏しい上皮性管腔様組織と, 肉腫様成分を欠いた間質を認め, 診断が得られた. 死亡報告例もあることから, 画像及びTBLBにて診断が困難な悪性腫瘍として, 臨床上重要な疾患と考えられた.

52. 縦隔原発Yolk Sac Tumorの1例

NII-Electronic Library Service